

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	さわやか愛の家さいだいじ館（放課後等デイサービス）				公表日 2025年11月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		専門的支援を行う時には個室を使うなどスペースを有効活用しながら支援を行っています。	利用児童様の様子に合わせて構造化を行いより視覚的に分かりやすいスペースとなるよう努めてまいります
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		子どもの様子や活動に合わせて配置の場所を話し合いながら適切に支援できる様にしています	現在5名、管理者兼児童発達支援管理責任者、保育士、言語聴覚士、理学療法士、看護師（生活介護と兼務）での運営となっております。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		車椅子児童もいるためバリアフリー化されており、スペースも分かりやすく区切って構造化を行っています	バリアフリー化されていますが、滑りやすい場所や棚の角へのクッション設置などの環境も整えてまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	心地よく過ごせるように遊びのスペースを整頓しています。また活動によって空間を替え十分に活動が行えるように環境を整えていま	毎日の清掃とアルコール消毒だけでなく玩具の消毒なども行き清潔に心がけてまいります
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		宿題や課題、着替え、排泄などのプライバシーが確保されるよう、専用の空間や部屋を設けて配慮しています。	必要に応じて個室が使用できる環境を整えていきます
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		PDCAサイクルに職員全員が参加できるよう、会議や振り返りの場を設け、意見を共有し改善に反映しています。	会議だけでなく、日常の業務中にも気づきを記録・共有できる仕組みを整備していきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティング時に情報を共有し職員全体で改善へつなぐ手立てを話し合っています	情報を共有し全体で改善していくように話し合いを繰り返し行いより良い支援に繋げられるようにしていきます
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎朝のミーティングで意見を交換できる場を設けている。また課題がでた時には全体で話し合い改善できる様にしている	職員全体の意見交換だけでなく、1対1でのミーティングも開催し、より深堀し業務改善を行っていきます
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		内部監査を実施予定となっています	現在、第三者による外部評価は実施していませんが、今後は外部の視点も取り入れ、業務改善に活かせる仕組みづくりを検討していきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		会社で沢山の研修があり様々なことを学ぶことができている	研修は行っているが職員が主体となって研修を行っていきよりレベルの高い研修ができるように努めています
支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを作成し、職員間で共有するとともに、保護者へ内容を説明・公表しています。	お子さまに合わせた支援プログラムを作成し、日々の支援に活かしています。保護者の皆さんにも書面や面談を通じて丁寧にご説明し、理解を深めていただくよう工夫しています。定期的に内容を見直し、よりわかりやすく、活用しやすい支援づくりに努めています。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		面談での情報も伝達し毎月行っているモニタリングでの話し合いも含めて作成できています。	毎月のモニタリングで支援内容を振り返り、必要に応じて見直しを行い、家庭とも情報を共有しています。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもに関わる職員全員が共通理解のもとで計画作成に参加し、日々の観察やモニタリングを踏まえて支援内容を検討・見直しています。	個々の子どもの発達状況や興味・特性を考慮し、短期・長期の目標設定を柔軟に調整し本人・保護者様のニーズに合わせて今後も作成してまいります
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画内容を職員間で共有し、振り返りを活用して、計画に沿った支援を実施しています。	1人ひとり具体的な達成目標に沿って丁寧に振り返りを行い成長点や課題などを見つけ次の支援計画に反映されるように行ってまいります
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		お子さまの行動や適応の様子は、日々の観察を通して丁寧に確認しています。職員同士や保護者との情報共有も行き、家庭と連携した支援につなげています。	お子さまの行動や適応の様子は、日々の観察を通して丁寧に確認しています。職員同士や保護者との情報共有も行き、家庭と連携した支援につなげています。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインの本人支援・家族支援・移行支援・地域支援の観点を踏まえ、必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容を明記しています。職員間で共有し、モニタリングに基づいて柔軟に見直しを行っています。	事業所や家庭、学校だけでなく地域社会全体での育ちをサポートできる体制を整えてまいります。

適切な支援の提供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	児発管が中心となって作成していますが、職員間で日々の様子や意見を共有しながら計画に反映しています。活動後の振り返りも行い、より良い内容になるよう工夫しています。	PDCAサイクルを用いてチームで立案を行っています
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節の行事や児童が好きな遊びなどを織り交ぜながら様々な活動を行っている	属人化されないように職員全体で活動プログラムを立案しバリエーションにとんだ活動ができるように工夫していきます
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		1人1人の発達を考えながら1つの活動を広げて支援することができている。	専門的支援が実施できる職員が2名いるため必要な支援を組み合わせながら支援を行うようになっています
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		朝礼時に話し合いができる為自分の動きを支援前にシミュレーションすることができる。	情報が必ず全体に回るように伝達またはLINEなどのツールを用いて情報は共有できるようにしています
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		朝礼ミーティングで職員間で打ち合わせを行い、振り返りや課題・改善点の共有を行っています	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		HUGにケア記録の入力を行い朝礼ミーティングの中で話し合いを行うことで支援の改善に努めている	支援ケア記録はその日または翌日に行い朝礼ミーティングの際に追加があれば追記するようになっています
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、お子さまの状況や活動の様子を職員間で共有しています。必要に応じて支援内容を見直し、家庭の情報も取り入れながら、より効果的に安心な支援につなげています。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		生活・学習・遊び・社会参加などの活動を組み合わせ、お子さまにとって楽しく効果的な支援を行っています。活動中の様子を観察しながら、よりよい組み合わせや方法を工夫しています。	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		日々の活動の中で、お子さまが自分で選べる機会を大切にしています。選んだ理由や感想も一緒に振り返りながら、自己決定する力を育てる支援に取り組んでいます。	意思の尊重を行い、自己選択や自己決定ができるように見守り育てていけるように支援してまいります
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		個別に現在の状況の様子を話し合い資料を作成し会議に参加しその後、職員に共有している	
関係機関や保護者との連携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	医療・福祉・学校などの関係機関と連携し、情報共有や会議を通じて支援体制を整え、子どもに必要な支援が途切れないと工夫しています。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校と事前に年間計画や行事予定を共有し、下校時刻や送迎の対応、緊急時の連絡も円滑に行っています。学校と連携しながら、安全で安心な支援を心がけています。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	新規児童の就学前の見学を行うことで情報の共有を行っています。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		移行支援会議にも出席をし情報を提供し途切れることのない一貫した支援ができるようにしています	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	現在、地域の児童発達支援センターとの連携は特に行っていませんが、職員間で日々の支援や事例を共有することで、子どもにより良い支援が提供できるよう工夫しています。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	児童館へ遊びに行けるように計画を行っている	児童館へ遊びに行けるがなかなか交流する場を設けることが難しい。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		なるべく参加できるようにしている。	様々な職員が参加できるようにスケジュールを組んで研修に参加できるようにしていく。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時に情報を共有しその情報を朝礼ミーティングで職員間で共有し話し合いができる。必要に応じてLINEなどのツールも使用している。	様々な方法での情報共有ができるようにしてまいります。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	現在、特別な研修や家族支援プログラムは実施していませんが、面談や連絡帳で日々の支援の工夫をお伝えし、家庭での対応にも役立てていただけるよう工夫しています。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		運営規程や支援内容、利用にかかる費用については、書面や面談を通じて丁寧にご説明しています。ご不明な点はその場で確認できるよう工夫し、安心してご利用いただけるようにしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		計画作成の際には、お子さまやご家庭の希望を丁寧に伺い、日常生活や活動に反映しています。意向を確認した内容は職員全員で共有し、安心して支援を受けられるよう努めています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		面談で説明を行い同意を得ている。	来館をしていただくことが難しい場合にも送迎時に説明を行い同意を得られるようにしています
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		日々の様子や写真を保護者様にLINEすることで成長している姿が共有できるようにしている	面談や送迎時だけでなく必要な時に相談していただけるように窓口を明確化してまいります
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	4	保護者会はできていないので今後開催できるように調整しています。	保護者会が開催できるように日程を調整し交流できる機会やさいだいじ館での取り組みをお知らせできるようにしていきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		子どもやご家庭からのご意見やご相談は、面談や電話などで受け付けており、安心してお知らせいただける体制を整えています。いただいたい内容は職員間で共有し、迅速に対応するとともに、よりよい支援に活かしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		毎日のHPでのブログ、SNSで活動内容や行事予定をお知らせしています。写真も取り入れ、どなたでも分かりやすく情報を確認できるよう工夫しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		お子さまやご家庭の情報は、安全管理を徹底しています。職員全員で情報の取り扱いに注意し、安心してサービスをご利用いただけるよう努めています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		子どもや保護者の特性に応じて、絵カードや写真などの視覚支援を活用し、複数の方法で情報を伝達。職員間で情報共有も統一しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		年に一度の大きなイベントに地域の方々を招待し、子どもたちの活動の様子を知りたくなる場を設けています。地域とのつながりを大切にしながら、安全に配慮した運営を行っています。	今後はさらに交流の規模を広げることや定期的な交流の機会も検討しています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		安全管理のためのマニュアルを整備し、職員や保護者に周知しています。避難や感染症対策の訓練もを行い、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		非常災害に備えて業務継続計画を策定し、避難や救出訓練を定期的に行ってています。職員全員で手順を確認し、安全に配慮した運営を心がけています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		服薬や体調、発作の有無を確認し、職員間で共有しています。必要に応じて個別の対応方法も整えて、安全に過ごせるよう配慮しています。	様々なお子様に対応できるように情報は共有しながら安全に過ごしていただけるように努めてまいります
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		食物アレルギーのあるお子さまには、食事は個室で提供し、職員が注意点を確認しながら対応していますので、安心して食事をいただけます。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画に基づき、研修や訓練、個別の健康・安全対策を行い、子どもたちが安心して過ごせる環境で支援を行っています。職員全員で情報共有し、万全の体制を整えています。	こども達にも分かりやすい訓練を行い安心して過ごしていただけるように環境を整備してまいります
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		お子さまの安全確保のため、安全計画に沿った取り組みや注意点を保護者の皆さんに分かりやすくお伝えしています。面談や連絡帳で情報共有し、家庭と協力して安心できる環境を整えています。	安全計画に基づく取り組み後には、保護者の皆様に周知して頂けるように努めます

	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	小さな事故やハブニングも記録し、職員間で共有して再発防止に努めています。安全な環境づくりのため、手順や対応方法も改善しています。	注意事項や改善点を見える化を行うことでより事故やトラブルの未然防止と安全意識の向上を図り、子どもたちが安心して過ごせる環境を継続的に整えています。
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	職員には定期的に虐待防止研修を行い、注意点や対応方法を共有しています。子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めています。	不適切な関わりについて常に意識し、安心してご利用いただけるように努めてまいります
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	身体拘束を行わざるを得ないケースを想定し、可能性があれば必要最小限度の範囲で計画に反映しています。子どもや保護者に透明性のある対応を行い、安全かつ適切な支援体制を確保しています。	身体拘束についてのフローの作成を法人で作成しています。